

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

| | 項目数 |
|--------------------------------|-----|
| I. 理念に基づく運営 | 22 |
| 1. 理念の共有 | 3 |
| 2. 地域との支えあい | 3 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | 5 |
| 4. 理念を実践するための体制 | 7 |
| 5. 人材の育成と支援 | 4 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | 10 |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | 4 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | 6 |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | 17 |
| 1. 一人ひとりの把握 | 3 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | 3 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | 1 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | 10 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | 38 |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | 30 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | 8 |
| V. サービスの成果に関する項目 | 13 |
| 合計 | 100 |

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

| | |
|-----------------|----------------|
| 事業所名 | グループホーム伊豆の家 |
| (ユニット名) | 1Fユニット |
| 所在地 (県・市町村名) | 静岡県伊東市吉田501番地1 |
| 記入者名 (管理者) | 土屋 京子 |
| 記入日 | 平成 19年 8月 7日 |

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------|---|--|----------------------------------|
| I. 理念に基づく運営 | | | |
| 1. 理念と共有 | | | |
| 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 独自の理念をつくりあげホームの玄関に入ってすぐの正面壁に理念を額に入れて掲げているまた、職員においても理念に基づいて業務に励むよう努めている | ○ 左記の事項を同様に取り組んでいきたい |
| 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 共有している、玄関に入ってすぐの正面の壁に理念をしたものを掲げてあり常にそれに向けての実践に努めている | ○ 左記の事項を同様に取り組んでいきたい |
| 3 | ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる | 家族の方へは入居時の契約時に理念について説明して理解していただき、その後は折にふれて理解していただけるよう努めている。また地域へは地域運営推進委員会を中心に老人会、町内会、民生委員会等の方々を通してホームの理念を色々介護現場事例をあげながら理解していただけるよう努めている | ○ 左記の事項を同様に取り組んでいきたい |
| 2. 地域との支えあい | | | |
| 4 | ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている | 施設としてホームではなく、ごく一般家庭という感覚でもっとホームの前を行きかう人々に対しても入居者の方々と一緒に散歩に出かけて出会う人々に対しても気軽に挨拶をか交わし合い馴染みの関係づくりに努めている | ○ 左記の事項を同様に取り組んでいきたい |
| 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 地域の行事等へは積極的に参加する姿勢でいる。今までに参加したものとしては区民体育祭、盆踊り大会、地域でのバザーの催し物等である参加した際も職員の方から地域の方々に挨拶を心がけ単に感謝の気持ちをもちつつ馴染みの関係作りに努めている | ○ 左記の事項を同様に取り組んでいきたい |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|---|--|------|--|
| 6 | ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる | 地区の回覧版等を活用させていただきホームでの研修会への参加を募ったり老人会等への挨拶に行き認知症や高齢者の特性、日頃から注意しなければならない健康管理の仕方等の話をさせて頂いた | ○ | 日頃より業務に追われることもあったりして地域の方々に役立つこととして話し合う場も少なく、実際に活動に移すまで余裕もないのが現状である。地域貢献の為に少しずつそういった時間を増やしていきたい |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | |
| 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 運営者・管理者・職員は評価の意義を管理者より説明を受け、意義を理解している。今回は全職員とのことなので初めての事ではあるが各々が自分の仕事を振り返り自覚と責任、これからの目標の達成へと意欲の向上を期待したい。また評価結果をもとに今後の課題として朝の朝礼や全体会を通して繰り返し啓発に努めている | ○ | 左記の事項を同様に取り組んでいきたい |
| 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 会議には地域の区長さんをはじめ多数の地域の方々に出席していただき日頃のホームでの利用者様へのサービスの実際や問題点、今後の希望等を報告し、助言、指導をいただき、その都度参考にさせていただいたり、実行したり有意義に生かしている | ○ | 運氏推進会議といものの取り組み方が初めはわからず思考錯誤の状態であったが参加して下さる地域の方々から色々の良いアドバイスを頂きうれしく思います。ただ家族の方の参加が仕事の都合でなかなかお集まりできなかったのので今後は曜日を検討していくことを取り組みたい |
| 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 伊東市では担当者の出席はなく、その変わり地域包括支援センターに委託しており、主任ケアマネジャーの出席が毎回ある 会議への出席以外にもTELや訪問により相談やアドバイスなど気軽に話し合える関係になっている | ○ | 左記の事項を同様に取り組んでいきたい |
| 10 | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している | 地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について地域包括支援センターに依頼し、研修生を当ホーム職員をはじめ地域の方々へも声をかけ8月中旬に予定している(センターの社会福祉士の資格のある方が講師をする予定) | ○ | 研修会等の学ぶ場を求め知識の工場に努めていきたいそしてそれを活かしながら支援できるよう取り組んでいきたい |
| 11 | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 管理者が職員向けに身体抑制(介護における)の種類をプリントしたものを配り、非人間的な扱いをすることの禁止と虐待にも触れて、ただ身体的なものだけではなく精神的なもの(言葉や対応の悪さ)においてのものもあることを説明する。また防止しなければならないことを指導した | ○ | 左記の事項を同様に取り組んでいきたい |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|--|--|------|---|
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | |
| 12 | ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 主に契約に関しては、管理者が関わっており、疑問や不安等に気軽に安心して質問していただけるよう十分な時間とプライバシーが守れる個室において説明を行い、理解され納得されるよう努めている | ○ | 左記の事項を同様に取り組んでいきたい |
| 13 | ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ホーム玄関に苦情投稿箱が常時用意されている。また地域に在任されている学識有権者の方に依頼し苦情相談員として位置していただいている。また利用者のご家族の方々へは、その方の氏名、連絡先を書面にて連絡させていただいている | ○ | 左記の事項を同様に取り組んでいきたい |
| 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 日常の家族の方の面会や行事等に参加された時などに日々の暮らしの様子を話したり、月2回の往診時の内容説明等を行っている。また遠方のご家族の方や面回数少ない方々にはこちらからTELや手紙等で同様の対応をしている関わるのは主に管理者が担当している。 | ○ | 左記の事項を同様に取り組んでいきたい |
| 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 地域運営推進会議へのご家族の出席や常時ホームに設置してある苦情相談箱や地域に在住し苦情相談の方の位置付け等により苦情は率直に受け止め、全体会や朝礼等を利用し敏速に対応するよう心掛けている | ○ | 左記の事項を同様に取り組んでいきたい |
| 16 | ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 全体会や朝礼、その他に臨時の集会を設け意見や提案を聞く機会としm一丸となって行動できるように努めている | ○ | 意見や提案を聞く機会を設けているが何らかの会議の合い間にとり入れているので、もう少しまとまった時間でじっくり話し合える機会を持つように取り組んでいきたい |
| 17 | ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている | その日、その日の様子で散歩は午後ではなく午前の早くから日照りを考えて行ってみたり利用者様の中で遠出の買い物を希望される方がいらしたら日常の買い物は中止して出掛けたり特に汗ばむ日には午前の入浴を午後まわしたり臨機応変な調整をしている。それもその日の職員が話し合いのもと決めている | ○ | 職員(主に新入職員)の中には様々な状況に対して、まだ臨機応変に対応できないものがあるので、その場に適した勤務調整ができるように職員の育成に取り組んでいきたい |
| 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 職員の諸事情をおおむね把握して状況により個人面談し要望、悩み等に相談・指導・支援し離職もできる限り抑える努力をしている。また新職員を迎える際には入所者様が不安やごちなさを感じないよう早く馴染みの関係作りができるよう運営者側も一丸となり混じわってダメージを防ぐ配慮をしている | ○ | できる限り職員のストレスを軽減する努力を考えて取り組んでいきたい 具体的な内容としてリフレッシュ休暇として有給を一日使用し、毎月一回連休をとり入れてみるとか福利厚生の名目においてカラオケ会や飲み会などの催し検討していきたい |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|---|--|---|
| 5. 人材の育成と支援 | | | |
| 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 管理者や職員の個々の特性を知り、得手、不得手の分野において法人内外の研修に参加させている また自己学習するような配慮もし課題を決めレポート作成をし提出させるような事も取り入れている。そして段々と教えられる立場から教える立場にスキルアップするよう日々計画を立てながら実行している | ○ 左記の事項を同様に取り組んでいきたい |
| 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 介護保険施設代表者会議やグループホーム、有料老人ホームの代表者会・ケアマネジャーの集会等へ参加し、交流をはかっている。またその会のうちの内容として施設見学会がありそれには管理者だけではなく職員も参加し他の施設を知りサービスの質を高めるためにより刺激となっている | ○ 左記の事項を同様に取り組んでいきたい |
| 21 | ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる | 仕事上においてメリハリがつけられるように休憩室を設け冷暖房・TVの設置・ゆったりとくつろげられる大きめの長いすのソファを用意してある。また時にはお茶貸しの差し入れなどにも配慮している。また休憩は仕事が途中ででもとりやすいようにと常に声をかけている | ○ 左記の事柄を継続し、同様に取り組んでいきたいことを加え月に一回有給休暇を一日使用しリフレッシュ日としての連休が取れるように取り組んでいきたい。 |
| 22 | ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている | 職員一人ひとりの優れた面を配慮し、誉めることをかかさぬように努めている。また出欠席・遅刻・早退等の状況・資格取得など日々頑張っていることを認めやはり誉めることをかかさぬように努めている。それにより少しでもやる気・向上心を高めていくことを期待したい | ○ 左記の事項を継続し同様に取り組んでいきたい |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | |
| 23 | ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | 個々お一人おひとりを常に大切に思う気持ちをくずさぬように努めどんなにささいなことであっても話し合いの場を持つようにしている。それも話し合いの場が自由に話せるようにプライバシーの保てる個室において行っている | ○ 職員一人ひとりが入居者様の声に耳を傾け真摯な姿勢で臨み信頼関係が築けるよう育成に取り組むたい |
| 24 | ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | 申し込みをされ入居してから現在に至るまで何回となく話し合いの場を持ちながら不安なこと問題となっていること話しやすい雰囲気の中、馴染みの関係作りに努め信頼関係を保っている。また対応は管理者のみならず職員でも同様に対応できるよう指導している | ○ 職員一人一人がご家族様の方とも信頼関係が築けるよう聞き上手になり表情・対応の仕方等真摯な姿で臨めるよう育成に取組むたい |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|---|---|------|----------------------------------|
| 25 | ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 申し込み時よりご家族・ご本人より情報を収集しその中から様々な問題や要望を整理し、今、現在本当に必要なサービスを見極めて対応して行けるように努めている | ○ | 左記の事柄を継続し、同様に取り組んでいきたい |
| 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 初回面談をし、具体的に分かりやすく納得いくように話をして職員としての面談者は安心して信頼していただけるように、やさしく笑顔でを常に心掛けている。その後、ご家族とともに来所して頂き雰囲気体験していただくことを何回でも入所までの間に頂き職員とも馴染みの関係をつくりながら大きな変化がないよう考慮している | ○ | 左記の事柄を継続し、同様に取り組んでいきたい |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | |
| 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | グループホームの入居者の方々と職員は、いつでもいつまでも家族である意識を持ち続けられるように努めている。家族であれば喜びも悲しみも共に感じ合い生活の中でお互いに教えあったり助けられたり絶えず何でも言える・話せる人間関係の継続に努めている | ○ | 左記の事柄を継続し、同様に取り組んでいきたい |
| 28 | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている | 入居者の方はもとより、ご家族の方にも共に職員と家族であり入居者の方々に関する件については共に言える話せる関係作りを継続し喜びも悲しみも気軽に報告し合うことに努めている | ○ | 左記の事柄を継続し、同様に取り組んでいきたい |
| 29 | ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している | 申し込みから入居されるまでにご本人とご家族との人間関係を熟知し、それにもとづいて入居後も良い関係であれば円滑に今まで通り築けるように配慮し不良な関係であれば少しでもご入居者との溝がうまるように間に入り支援に努めている | ○ | 左記の事柄を継続し、同様に取り組んでいきたい |
| 30 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 入居されてもホームは自宅同様とさせていただき親しい方には気軽に来ていただき職員としてもお客様として心良くお迎えしている。ご入居者の今までの生活状況を把握し、馴染みの場所へ(理美容院・自宅・施設入所されている友人の所等)送迎し今までと同様に関わられるように支援している | ○ | 左記の事柄を継続し、同様に取り組んでいきたい |
| 31 | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている | 常日頃より、入居者様同士の関係を把握し時と場合によっては間にはいり円滑に関係が築けるようにレクリエーションやちょっとした会話の場面、散歩、買い物などを、きっかけに支援に努めている | ○ | 左記の事柄を継続し、同様に取り組んでいきたい |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|---|---|------|---|
| 32 | ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている | 事情により退所されたご家族とまだ交流を持っておりご入居者様が入院されている病院へ時々お見舞いに出掛けたりご家族とも時折電話をかけて近況の報告を受けたりホームへ来所されたり交流は続いている | ○ | 左記の事柄を継続して同様に取り組んでいきたい |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | |
| 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 意思疎通の可能な方に対しては話し合いの場をもち希望や意向の把握に努めている。また疎通が困難な方に対しては日頃の状態把握をしそれに合った暮らし方ができるように配慮している | ○ | 職員一人一人が入居者様の個別性を理解しながら思いや意向を組みとり積極的に把握に努めるように育成強化に取り組みたい |
| 34 | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 申し込み時にほぼ生活歴や馴染みの生活パターン暮らしの環境・これまでのサービス利用の経過等の情報を収集し把握するように努めている | ○ | 左記の事柄を継続して同様に取り組んでいきたい |
| 35 | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている | 毎日朝より入居者様一人一人のバイタルチェックを施行しその方の自己本位の生活リズムを尊重し意図的に機能訓練も取り入れている為、残存能力、潜在能力を見極め、一日の生活の中に自分らしく暮らしていただけるように総合的な把握に努めている | ○ | 左記の事柄を継続して同様に取り組んでいきたい |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | |
| 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | ご本人、ご家族、その他の関係者と話し合いできるだけ多くの情報収集の中から課題を浮き彫り出させそれを元に再度、意見をいただきながらそれらが生かされた介護計画を作成している | ○ | より良く暮らすための課題の気づきを職員が訓練し入居者様の個々の質を高めた介護計画を作成するように取り組んでいきたい |
| 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 介護計画の期間内でチームカンファレンスを行うことにより見直しする場合がでてきたりまたそれ以前に状態変化が起きた場合には都度カンファレンスをもち計画しなおすように努めている | ○ | 左記の事柄に継続して同様に取り組んでいきたい |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------|--|--|------|---|
| 38 | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日頃の個別記録には最低でも1つは介護計画の一項目を取り上げその実践についての記録を残すように努めている。またその日の特変やちょっとした変化や気づき等も記載し全職員が意識しながら関わり、それをもとにケアカンファレンス時に共有した事柄として意見交換し介護計画の見直しに活かしている | ○ | 日々入居者の方の状態変化は少しながらもみられる昨今である |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | |
| 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 主に入居者様の状況変化によるもので今現在を大事にしないでという所で特別な介護をほどこす場面が都度ある だが限られた職員の中で行うのは限界があり十分とはいかないのが現状である。今後はその不足の部分ボランティアを募るなど工夫していきたい | ○ | もっと個別的な関われる場面がほしく思う。それにはボランティアの協力も得ながら取りくんでいきたい |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | |
| 40 | ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している | 入居者様の意向により地域のボランティアサークル(カラオケ、社交ダンス等)に参加されたり、散歩やレクリエーション(特に将棋)の相手をして下さるボランティアの方々が来所して下さったりまた災害対策の一環として警察、消防に対し、入所者様のリストを配布し災害時の協力を依頼している | ○ | 左記の事柄を継続し同様に取り組んでいきたい |
| 41 | ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている | 他のサービスに関しては、ご入居者様、ご家族様ともに意向や要望もない為、他のケアマネジャー他のサービス事業者の方との話し合いの場は特に設けていない現在、ホーム内のサービスのみにおいて散歩、買い物、外出、レクリエーション、畑作業等により同等に賄なわれている | ○ | 特にホーム内において まかなえているので他サービスを使用する予定はないが入居者さま、ご家族様よりももしも要望があれば取り組んで行きたい |
| 42 | ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している | 現時点では入居者様よりの意向や要望がないので特に話し合いの場や長期的なケアマネジメント等は実施していない。ただし、権利擁護や成年後見制度についての職員研修を地域包括支援センター内の社会福祉士資格のある方に講師を依頼し8月中旬に開催予定である | ○ | 左記の事柄の予定もあり、今後も連携をくみながら取り組んでいきたい |
| 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 毎月2回以上、提携医の訪問診療があり、日頃からの健康状態の維持、その他入居者様からの訴えに対しても随時対応している。また往診以外にも急変時や入居者様よりの急拠の訴え等にも対して随時対処できる状態を築いている | ○ | 左記の事柄を継続し同様に取り組んでいきたい |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---|--|------|---|
| 44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している | 普段かかりつけ医以外に認知症の専門医にも状況により受診に行ったり職員が直接通院し医師より指導及び薬の処方を受け継続しながら治療ができるよう支援している | ○ | 左記の事柄を継続して同様に取り組みたい。また精神薬等が例え処方されたとしてもそれでいいとせずに介護でも改善される状態もあり得るので職員各々が介護のアイデア、センスを生かし薬を服用せずとも快適に暮らせ、良眠できる生活にしていこうという意識を高めていけるよう育成に取り組んでいきたい |
| 45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている | 准看護師が常勤している為、日常の健康管理は馴染みの人間関係の中で毎日とり行われております。またその他にも今年3月下旬より正看護師をパートにて採用しペアで入居者様の医療の支援をしている。看護師は自宅からホームまで車で7,8分なので急変時の対応も可能である | ○ | 左記の事柄を継続して同様に取り組みたい |
| 46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している | 一ヶ月程入院された方がおられたが病院が遠方であった為、面会は数回程度ではあったが、その他は電話でのやり取りによって病院関係者との情報交換を行いながら退院まで連携に努めた。また話し合いにより退院してからも状態が変化したのなら再度入院し改善したらグループホームへ戻るといったシステムを連携しながら対応していくことができた | ○ | 左記の事柄を継続して同様に取り組みたい。いつの時でも福祉施設、医療機関等との連携の重要を感じる。日頃より情報交換を常にとれる、とりやすい体制を整えていく取り組みをしていきたい |
| 47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 入居者様のお一人お一人に対し日頃からの様子をふまえて精神面、身体面についてご家族の方々に対して折にふれ話し合いの場を持ち現在の状況を伝えている。また除々に精神面、身体面において著明に変化がみられる方に対しては少しずつ重度化した場合や終末期に向けた方針を機会あるごとに話し合いの場を持ち検討しあっている | ○ | ご家族様からの相談に応じたりこちらからあるいはご家族様からと都度話し場の場、検討をしているが、かかりつけ医を混じえてとなると訪問診療時、それが予約しておいて病院まで出向くという体制になっており頻度的には少くないのが現状である。もう少しご家族様とも会話できる機会をもっていかれるように取り組みたい |
| 48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている | 現在は重度、終末期の入居者様はおられず、安定した日々をすごされているかが方々ばかりではあるが今後は状態変化においては日頃の介護の中で観察力を高め少しの異常も見逃さず共通の情報年、何ごとも「いつも元気だから大丈夫」ではなく「いつも元気で何か変化が起こるかもしれない」という意識付けをしている | ○ | 左記の事柄を継続して同様に取り組みたい |
| 49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている | ほとんどが家族の都合に寄るもので入居者様の意思とは違う為、家族、ご本人と職員間にて何度か話し合いの場をもち取り組んでいる。また転居する施設関係者とも情報支援をよく行いながら少しでも心の動揺のないように心がけている | ○ | 左記の事柄を継続して同様に取り組みたい |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|--|---|---|
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | |
| 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 職員の言動、対応等において入居者様に対する尊敬と尊厳を絶えず尊重し、言動、対応、記録等に関して誇りやプライバシーに留意することを毎日の朝礼にはじまり随時、職員を個別的に指導している | ○ 左記の事柄を継続して同様に取り組みたい |
| 51 | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている | 入居者様とのコミュニケーションは大事に丁寧聞くことから個々の思いや希望を感じとったり表現しやすいように意図的に話かけてみたり自分の思いに気付き納得の上、決定して暮らせるように支援している | ○ 左記の事柄を継続して同様に取り組みたい |
| 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | その日の体調や気分的なものを個々の状態に合わせて実施したり、中止したり取り組むようにしている。特に散歩や入浴、レクリエーションなど職員側の都合ではなく入居者様が選択し希望にそうように支援するよう努めている | ○ 左記の事柄に努めてはいるが、毎日、全入居者様の意向を優先とまでは至っていない少しでも多くの日々が少しでも多くの入居者様が満足感を感じていただけるよう取り組んでいきたい |
| (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | |
| 53 | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている | 個々の希望により行きつけの美容院等にできるだけ行きたい時に送迎したり移動美容室の方に来所して頂き、希望者の方はホーム内で実施している。また衣服や化粧品など希望があれば買い物に出掛けたり、衣服の身だしなみに対しても支援している | ○ 左記の事柄を継続して同様に取り組みたい |
| 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている | 入居者様、お一人お一人のできる所、できない所を職員が見極めて、料理の準備段階から仕度、盛り付け、片付けまでを職員と楽しみながら行っている。その際に利用者様に感謝の気持ちを忘れず、言葉で行っております。際中でも終了した後でも「ありがとうございます 助かりました」とねぎらいの言葉を忘れずかけている | ○ 左記の事柄を継続して同様に取り組みたい |
| 55 | ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している | お酒を好まれる方が一名おり、毎晩に定量を居室にて召し上がっておられる。また飲み物やおやつはその日その日でバラエティーに提供しているがほぼ大半が好まれる物としておだししている為、個人の好みがその日は確実というわけではない | ○ 今後はできる限り、飲み物位は個々の好みのものが飲めるように対応していきたい。 |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|--|---|------|---|
| 56 | ○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している | 自力で行かれる方に対しては個人を尊重し排泄をしていただいている。自力での排泄が困難な方に対しては排泄のパターンを配慮しながら誘導し事故のないよう支援している。また対応しながら個人の状態を見極めて無理のない程度に布パンツの移行を試みている | ○ | 布パンツに変更を試みたとしても失敗があまり続くとすぐあきらめてしまう傾向がある もっととことん追求し可能な限り布パンツでいられるよう努力したい |
| 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 業務スケジュールを何度か見直しながら、午前と午後に入浴の時間帯を設定している。雨の日やその他、天候不良の日には外出を中止し入浴に変更する場合もある | ○ | 今後、認知症程度が低く、自立されている方に対しては夕食後でも数人程度の入浴できる機会を設けてみたい |
| 58 | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している | 個別的に入眠の時間があるのでそれを尊重し、一勢に入床するのではなくテレビを見たり会話をしたり一息ついて、そろそろという間を大事にする支援に努めている | ○ | 左記の事柄を同様に継続したい |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | |
| 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 申し込み時より個別の情報を把握し生活の中でできそうな事、できるかもしれない事に気付き見極めて色々な角度から関わりを持ちながらできる事を増していただけるよう努めている。また家族の協力も得ながら個別的に好きな所、行きたい所に出掛けたり、外食に出掛けたり楽しみを充分感じていただけるような支援に努めている | ○ | 左記の事柄を同様に継続したい |
| 60 | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 入居者様の方から、お菓子の所持を希望があれば個々の状態によりご家族と話し合いのもと持って来ていただいたり自由に自分でお金を使用することの楽しみを実感していただいている。ただ金額的なものは個人的に所持能力を見極めてご家族と相談しながら決定している | ○ | 左記の事柄を同様に継続したい |
| 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 外出については、ほぼ毎日天候が許す限り希望によって出かけている。また遠方への外出は車を使用し、ドライブに出かけたり、前もって日を決めておいてから買い物に出かけたりできるだけ希望にそうように外出計画をたてている | ○ | 左記の事柄を同様に継続したい |
| 62 | ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している | 体調を考慮し状態がよければ家族同伴で旅行に行かれたり、他施設に入所されている方をお見舞いに行かれたり訪問されたりのできる限り希望にそうように外出を支援している | ○ | 普段は行けない所となると全入居者の方が行かれているわけではないので個別にもって関わり、少しでも多くの方が実現できるよう取り組みたいと思う |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|---|---|------|--|
| 63 | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 現在でもホームの玄関にホーム用のポストを用意しつつもその中に投函できるようになっている。電話に関しては直接居室に用意されている方もいたり、もしくは事務所の電話を自由に職員が見守りの上、使用可能となっている | ○ | 左記の事柄を同様に継続していきたい |
| 64 | ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している | 門限や面会時間は設定されていない為いつでも気軽に訪問はして頂いている。現在、朝は8時頃からの面会や夜間も19時頃の面会がある。また来所された方々に対しても今後もうぞいつまでも入居者様の自宅と思って訪問していただきたい旨を伝えている | ○ | 左記の事柄を同様に継続していきたい |
| (4)安心と安全を支える支援 | | | | |
| 65 | ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 一度、全体会の時に身体拘束に関わる行為をプリントしたものを配布し、人間として決してしてはならないことであると指導しまた当ホームでは身体拘束をしていない | ○ | 一度、職員に指導はしたものの、途中より入職した新しい職員へは学習の機会をまだ設けていないのもう一度、近いうちに実施し全職員が徹底して理解し取り組むようにしていきたい |
| 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 日中は居室はもとより玄関にも鍵をかけてはいない。夜間については、20時以降は玄関を施錠している。特に鍵をかけていない為、利用者が御自分で外に出ることが可能だが、出入り口付近に職員がいることになっており、見守りで対応している | ○ | 現在は鍵をかけなくともすんではいるものの今後、入居者の方々が認知症の変化に伴ない対応が様々に変わってくると思われる。そのような際に職員が一人一人のケアの向上に常に努め、何事においても入居者様中心でポジティブな対応ができるようにいきたい |
| 67 | ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している | 職員に「いつでも、何か起こるかもしれない」という意識づけを指導している。また所在地や様子等は五感を働かせ絶えず見守り、一に安全、2に安全であると示し、時には臨機応変な対応やアイデアが要求されることを指導している | ○ | 左記の事柄を同様に継続していきたい新職員が数名いる中、介護が希薄になる場合に備え常に会話を持ち注意点や現場状況を視察しながらの指導等を強化していきたい。またインシデント・レポート等を参考しながら、事故の恐れ、安全と安心の確保の心掛けを繰り返し指導したい |
| 68 | ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている | 果物ナイフに関しては入居者様の状態により保管させていただく方、ご自分でくだものをむくことができる方には注意事項をあげながら自己管理していただいている。針に関しては入居者様と職員との話し合いのもと保管させていただき使用する際には見守りの中、場所を決めて使用することになっている | | 危険な物品管理をしている方に対しては意識レベル、認知症の進行程度等を継続して観察し時と場所によっては保管させていただき状況も検討していきたい |
| 69 | ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる | 事故防止やマニュアルを作成し職員研修を行ない知識向上をはかる入居者様の各々の状態を把握し防止策を検討しあい取り組んでいる。また職員の知識、経験差があり総体的に個々の状態に対し問題意識をもち防止策を思案する職員一人一人になってほしいと思う | ○ | 職員一人一人に対し事故に対する知識の程度とそれに対して防止策の考え方を確認していきたい |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------|--|--|------|---|
| 70 | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている | 開設時に急変・事故等のマニュアルに基づき研修を行っているが定期的に訓練は行っていない。ただ状態変化をある程度関係した職員たちに対し指示をしたり指導することにより対応の仕方を現場で取得している | ○ | 新職員もいるので確認の意味でもう一度研修会をもち応急手当、初期対応を勉強し個々の職員の理解度を確認したい |
| 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 年に何回か昼、夜の設定をしてみたり様々な状況変化を想定し非難訓練を実施している。だが入居者様の認知状態により避難できる方法を身につけられている方は数人である。また入居者様の名簿を警察と消防署に配布し協力を得られるように働きかけている | ○ | できれば毎日様々な状況を設定しながら避難訓練に取り組んでいきたい |
| 72 | ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている | 面会時や行事等への参加時などを利用し個別的な話し合いの場を大切にしている。現在から今後にかけて予想される事柄を具体的に説明し、その時の対応の方針等も説明しながら主治医も連携しているので安心して暮らして頂いている | ○ | 左記の事柄を継続して取り組んでいきたい |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | |
| 73 | ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている | 毎朝 定時刻にバイタル測定を実施しており朝から健康観察により早期発見をすることができている また看護師等により迅速な対応により情報を共有し、提携医への連絡体制も迅速にとり行なうことができている。現在までに発見が遅れて大事に至ったことはない | ○ | 左記の早期発見のための手段と介護者から看護師そして提携医へのチームプレーが円滑にとり行えるよう維持していきたい |
| 74 | ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 入居者様お一人ずつ現在服用している薬の商品名と用法、用量を記載したファイルとその薬の効用と副作用について明記したファイルをいつでも職員が見ることができるようになっている。また服薬の介助に関して誤薬のないよう確認をすることの指導をしている。その薬によって症状の変化を報告するように指導もしている | ○ | 職員によってファイルをしっかりと熟知しようとするものさりと読み返してしまうものと勉強意欲に差がある為、個別的に重大な薬の理解度や副作用の症状等についての知識の程度等を確認していきたい |
| 75 | ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる | 職員はほぼ原因を理解し、それに対する対処法を理解し取り組んでいる | ○ | 左記の車両を同様に継続しながら取り組んでいきたい |
| 76 | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている | 毎食後口腔ケアを実施し入居者に応じた対応をしている。基本的に自立支援を心がけ見極めながら支援をしている。全入居者様の都度、確認が共有して取れるようチェックリストを作成し関わった職員がチェックするようにしている | ○ | 左記の事柄を同様に継続しながら取り組んでいきたい |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------|---|--|------|----------------------------------|
| 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食に関しては職員と入居者と入居者様が共に作り共に同じものを同じ場所で摂取しているので量的なものや栄養バランス的なものも共通に感じられている。水分量にしても残した量を確認できるのでだいたい確認できている。また個人の状態により増減したり水分も少ないようであれば途中で補給するよう気付き実行している | ○ | 左記の事柄を同様に継続しながら取り組んでいきたい |
| 78 | ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等） | 開所当時に研修の際に感染症について予防や対応について取り上げ勉強をした。また一時期、全国でノロウイルスが流行したこともありあらたにマニュアルも作りなおし、再度、管理者が中心となり講習をしなおす。また現在もハイターでの食器消毒や床拭き等を続行して行っている | ○ | 左記の事柄を同様に継続しながら取り組んでいきたい |
| 79 | ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている | 台所を使用後の清掃はもちろん調理用具の消毒、手洗い用消毒剤等を用意励行している。また食材も生もの等はその日に買い出しに行きいたみやすいもの等はあまり気分にならずに都度購入するように心掛けている | ○ | 左記の事柄を同様に継続しながら取り組んでいきたい |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | |
| 80 | ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている | 玄関周りにはプランターを置き四季折々の草花を育て危険のないように障害物を取り除き、車椅子でも安全に使用できるようスロープの側も用意されている | ○ | 左記の事柄を継続して取り組んでいきたい |
| 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 窓にはレース、布の両方のカーテンを用意し日照りの状態により加減できるようにしており、防音効果のあるガラス戸にて外部の不快な音響等も防げるしくみになっている。また食堂テーブルや台所カウンターには季節の花を置きフロアには観葉植物が常時数点用意されている | ○ | 左記の事柄を継続して取り組んでいきたい |
| 82 | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 食堂スペースの片すみにソファとテーブルが用意されており、いつでも気軽に腰掛けたりお茶を飲んだりできるようにしてある。また面会に来られる家族の方との語らいの場として使用することもある | ○ | 左記の事柄を継続して取り組んでいきたい |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------|---|---|------|--|
| 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時に今まで使い馴れた家具や馴染みの品物を持ち込まれ住み慣れた場と同じような状況に近づけ、大きな生活環境の変化がないように配慮している | ○ | 左記の事柄を継続して取り組んでいきたい |
| 84 | ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている | 一日のうち時間をみはからって窓を開けて空気の入れかえを行うようにしている。またフロア・天井の3ヶ所に空気清浄機が設置しており、いつでも自動的に室内の空気が浄化されておりにおいやよどみを感じられない。また温度調節においては食堂スペース、居室に限らず適温を維持するように心掛けている | ○ | 職員によっては換気などには無頓着に仕事をしていたり、余裕のない者もいるので全職員が統一してこまめに心掛けられるよう指導を強化していきたい |
| (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり | | | | |
| 85 | ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 建物内部においては、自立支援を考慮し手摺、段差なしや洗面所の高さに配慮したり車椅子でも対応可能な作りにし浴室においても自立して入浴できるようにあらゆる所に手摺りを取り付けるなど工夫している | ○ | 職員一人一人がもっと自立支援に対する意識を高め安全に配慮しながらとり行えるように指導を強化していきたい |
| 86 | ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している | 何事においても認知症であっても尊敬と尊厳の気持ちを忘れずに残存能力、潜在能力を生かしながら職員ができない所を見極めてプライドを傷つけずにこちよく自立して暮らせるような支援に努めている | ○ | 左記の事柄を継続して取り組んでいきたい |
| 87 | ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている | 建物の外周りには畑があり、季節折々の野菜や果物を栽培し、収穫の時期には入居者の方も取り行かれることもある。また玄関前の空間においては椅子とテーブルを用意しお茶を楽しむこともある。たまに地域の方も立ち寄られお茶をしてもいられる。 | ○ | 左記の事柄を継続して取り組んでいきたい |

V. サービスの成果に関する項目

| 項 目 | | 最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。 | |
|-----|--|-----------------------|--------------|
| 88 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる | ○ | ①ほぼ全ての利用者の |
| | | | ②利用者の2/3くらいの |
| | | | ③利用者の1/3くらいの |
| | | | ④ほとんど掴んでいない |
| 89 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある | ○ | ①毎日ある |
| | | | ②数日に1回程度ある |
| | | | ③たまにある |
| | | | ④ほとんどない |
| 90 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 91 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 92 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 93 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 94 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 95 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています | ○ | ①ほぼ全ての家族と |
| | | | ②家族の2/3くらいと |
| | | | ③家族の1/3くらいと |
| | | | ④ほとんどできていない |

| 項 目 | | 最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。 | |
|-----|---|-----------------------|--------------|
| 96 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている | <input type="radio"/> | ①ほぼ毎日のように |
| | | <input type="radio"/> | ②数日に1回程度 |
| | | <input type="radio"/> | ③たまに |
| | | <input type="radio"/> | ④ほとんどない |
| 97 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている | <input type="radio"/> | ①大いに増えている |
| | | <input type="radio"/> | ②少しずつ増えている |
| | | <input type="radio"/> | ③あまり増えていない |
| | | <input type="radio"/> | ④全くいない |
| 98 | 職員は、生き活きと働けている | <input type="radio"/> | ①ほぼ全ての職員が |
| | | <input type="radio"/> | ②職員の2/3くらいが |
| | | <input type="radio"/> | ③職員の1/3くらいが |
| | | <input type="radio"/> | ④ほとんどいない |
| 99 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | <input type="radio"/> | ②利用者の2/3くらいが |
| | | <input type="radio"/> | ③利用者の1/3くらいが |
| | | <input type="radio"/> | ④ほとんどいない |
| 100 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> | ①ほぼ全ての家族等が |
| | | <input type="radio"/> | ②家族等の2/3くらいが |
| | | <input type="radio"/> | ③家族等の1/3くらいが |
| | | <input type="radio"/> | ④ほとんどできていない |

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当ホームは住宅地に所在し、車の通りも少なく散歩にも適しておりホーム外周には畑もあり、季節の野菜を新鮮で豊富に食することができ、入居者様にも実際に畑にて作業をしていただいたり収穫の手伝いをしていただくなど自然の体験が可能です。また近くにはスーパーや商店など気軽に買い物を楽しむことができ、散歩や買い物等により地域の方々とも馴染みの関係が築きやすい環境に感謝している。これからも環境を生かし、自然を感じつつ自分らしくしたい事ができる暮らしを充分に出来るよう取り組んでいきたい